

まえがき

文部科学省は「ライフサイエンス」、「情報通信」、「環境」、「ナノテクノロジー・材料」、「防災」の5分野について、あらかじめ課題等を設定し、実施する機関を選定して研究開発を委託する事業を2002年度から開始しました。これらの委託事業は「新世紀重点研究創世プラン～リサーチ・レボリューション・2002(RR2002)～」と呼ばれています。RR2002の「防災」分野の研究開発委託事業が「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」(通称: 大大特)です。

大大特は、首都圏や京阪神などの大都市圏において、大地震が発生した際の人的・物的被害を大幅に軽減するための科学的・技術基盤を確立することを目的としています。この目的を達成するために、理学・工学・社会学など幅広い分野の研究者・技術者の総力を結集し、下記課題に平成14年度から5ヵ年計画で取り組んでいます。

- I 地震動(強い揺れ)の予測「大都市圏地殻構造調査研究」
 - 1. 大深度弾性波探査
 - 2. 大規模ボーリング調査
 - 3. 断層モデル等の構築

- II 耐震性の飛躍的向上「震動台活用による耐震性向上研究」
 - 1. 実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)の運用体制整備
 - 2. 鉄筋コンクリート建物実験
 - 3. 地盤・基礎実験
 - 4. 木造建物実験
 - 5. 高精度加振制御技術の開発
 - 6. 三次元地震動データベースの整備

- III 被災者救助等の災害対応戦略の最適化「災害対応戦略研究」
 - 1. 震災総合シミュレーションシステムの開発
 - 2. 大都市特性を反映する先端的な災害シミュレーションの技術の開発
 - 3. 巨大地震・津波による太平洋沿岸巨大連担都市圏の総合的対応シミュレーションとその活用手法の開発
 - 4. レスキューロボット等次世代防災基盤技術の開発

- IV 地震防災対策への反映
 - 1. 事前対策に関する研究
 - 2. 災害情報に関する研究
 - 3. 復旧・復興に関する研究

本報告書は、「大都市大震災軽減化特別プロジェクト、Ⅱ 震動台活用による構造物の耐震性向上研究」に関する平成14年度の実施内容とその成果を取りまとめたものです。

ここに、「震動台活用による構造物の耐震性向上研究」の目的は、防災科学技術研究所が現在、兵庫県三木市に建設中の「実大三次元震動破壊実験施設(E-ディフェンス)」をはじめとする世界の震動台や震動実験専用シミュレータを活用(既存データの活用を含む)して耐震に関する実験・研究を行い、構造物の耐震性の飛躍的向上を図ることです。

この世界初の実大三次元震動破壊実験施設である E-ディフェンスを有効に利用するためには、施設の運営体制の整備、大規模実験研究を実施するにあたっての予備的研究、どのような実験を行うかの計画、実験結果の成果の展開方法、試験体を積載した場合の震動台応答性の事前確認、震動台に入力する地震動、等の課題があります。

本テーマは、これらの研究課題解明のための実験・研究を推進することにより、構造物の耐震性向上に関する技術的基盤の確立を目指しています。なお、耐震性向上が必要となる構造物は多種多様であります。現存する研究シリーズ、予算規模、5年間という時間的制約等を考慮して、テーマⅡでは、鉄筋コンクリート建物、地盤・基礎および木造建物を重要課題として取り上げています。